

2019年度 社長スモールミーティング（合計3回開催） 2019年6月27日（木）

スピーカー：代表取締役社長執行役員 赤坂 祐二

専務取締役執行役員 財務・経理本部長 菊山 英樹

冒頭、赤坂より以下8点をご説明。

1. 社長就任以降の振り返り
2. 2018年度の業績結果について
3. 国内線・国際線の足許の状況について
4. 首都圏空港の機能強化について
5. 共同事業戦略の進捗状況について
6. 2020年度を初年度とする新中期経営計画の策定について
7. 9/1より国内線に導入するエアバス A350機について
8. ZIPAIR進捗状況について

主な質疑応答：

Q 国内線の足許の状況について

A GW以外の期間も好調。好調の背景の一つは総需要の伸びで、特に若年層（10代後半～20代）旅客の需要増加が顕著。もう一つは、JALグループ国内線の商品・サービスがお客さまに評価されている。

Q 国際線の足許の状況について

A 海外発需要は5月以降順調に回復している。一方、日本発需要に6月以降一部路線でやや陰りが出てきているが、夏場に向けてしっかりと増収を目指していく。

Q ハワイ線の状況について

A 総需要が伸び悩み他社の供給増がある中で、ほぼ想定通りに推移。ハワイアン航空との共同事業により、選好性を高めていく。

Q 他社との提携戦略について

A 国際線の事業ポラティリティを考慮した戦略。共同事業やコードシェアなど、アライアンスの枠組みを超えて世界のパートナーとの提携を積極的に拡大し、自社の固定費を増やすことなく、ネットワークの拡充を図っていく。

Q カード事業・マイル事業について

A カード事業・マイル事業ともに、収益性が高い事業。JALカードは会員数も増えており順調。マイル事業も伸びており、カード事業とマイル事業の両輪を組み合わせしていく。

Q 新規事業について

A 今後の成長に向けては、航空運送以外の周辺事業の拡大が重要。我々の強みである、商品・サービス力や安全性を活かせる事業に注力する計画を今後お示ししていきたい。

Q ZIPAIRについて

A 2年目で黒字化、就航5年後にはJALグループの一員として達成すべき利益率を目指す。また、間接コストをできる限り削減する等により、ユニットコストはJAL本体の半分程度としたい。初年度

(2020 年度)は、成田＝バンコク線および成田＝ソウル線の就航を計画、2 年目(2021 年度)から米国西海岸への運航を目指す。また、マイレージプログラムの提携等により JAL ブランドとのシナジーを生み出していきたい。

Q 新中期経営計画について

A 数年の期間の計画となる見込み。「2017-2020 中期経営計画」では、10 年先のグランドデザインを発表した。新中期経営計画では、グランドデザイン達成に向けた具体的な道のりを示す予定。

以上